

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内

洛友会

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

075-753-5270

www.rakuyukai.org

新年ご挨拶

洛友会 副会長

小野寺

得井 慶昌

土井 義宏

事務局長

和田 修己



洛友会の皆様、新年おめでとうございます。今年が皆様にとりまして良い一年となりますこと、心よりお祈り申し上げます。

昨年は、春先からのコロナ禍により、日常が大きく変わってしまつた一年となりました。世の中では外出自粛や非常事態宣言など、昨年初めには予想もつかなかった状況の中で、企業でも大学でも感染拡大防止のためのテレワークやオンライン会議・オンライン授業が日常となりました。生活の不便や教育・経済活動の問題など、困ったこともたくさん発生しましたが、コロナ禍とともに、あるいはコロナ後（ポストコロナ）に対応する新たな状態・新たな常識としての「ニューノーマル（新常态）」なる言葉もよく見かけるようになり、コロナ禍を乗り越え

て進んでゆこうという動きも進みつつあります。事態を少しでも好転させ、あるいは被災害や環境問題にもあまり影響されない持続型（サステナブル、Sustainable）社会を目指して、災い転じて福となるよう、みんなが協力して進んで行ければと思っております。

京都大学では、昨年三月に予定されていた大学院学位授与式・卒業式と四月の入学式の中止が3月10日に決定され、ほぼ同時に令和2年度の学部・大学院授業のオンライン化の検討が進みました。社会全体では4月7日に東京・大阪を含む7都府県への緊急事態宣言、4月16日の全国への緊急事態宣言拡大を受け、令和2年度は慌ただしく進みました。最近では、若干この状況に対する慣れから緩みも見られるようで懸念されます

が、悪いことばかりではなく、オンラインならではの交流も行われました。

洛友会では、新型コロナウイルスの広がりを受けて、昨年三月末に、本部役員と各支部に向け、「支部総会等イベント自粛について」のお願いを发出し、この時点では前期（夏頃まで）の総会・支部総会等の原則自粛のお願いを行い、例年は五六月に開催される本部総会・支部総会も延期やオンライン開催となりました。年の後半になつても状況は好転せず、開催が延期となつていた本部総会を12月27日にオンライン開催いたしました。例年11月に開催する「電気系懇話会」も本年度はオンライン開催となりましたが、Zoomでの講演会に多くの皆さんにご参加いただき、日ごろ京都大学でのリアル開催には参加しにくい遠方の方々が画面上で顔を合わせるなど、良い面もあつたように思います。

まだまだコロナウイルス感染も収まる気配がなく、非常事態宣言が再度出される状況ですが、少しでも早く明るさが見えることを祈念いたします。

以下に、昨年末に開催しました本部総会のご報告を申し上げます。

（本部総会報告…文責・和田修己

（洛友会事務局長）

洛友会会長の交代について

長尾真先生には、長年にわたり洛友会会長をお勤めいただきありがとうございました。2020年1月に長尾先生より「次期総会にて会長を退任したい」とのお申し出があり、幹事会・役員会で検討いたしました。事務局の不手際で、総会開催が遅くなつてしまいましたが、12月27日（日）にオンライン（Zoom）開催した総会にて、後任会長として元・京都大学総長・松本絃先生（昭40）を推薦し、審議の結果、承認されました。なお、本年度は役員改選の年ではありませんが、会長ご交代に伴い、顧問および幹事長・幹事も、以下にご報告のとおり交代が承認されました。

長尾先生には、長年にわたり洛友会活性化にご尽力いただくとともに、京都大学電気系教室の教育・学生および卒業修了生への支援にご理解を賜り、深く感謝いたします。今後ともご健勝ご活躍をお祈り申し上げます。松本先生には、新会長をお引き受けいただきましてありがとうございます。新年を迎え、洛友会の新たな一歩として、ご指導いただきますように、よろしくお願い申し上げます。なお、松本先生には次号の洛友会会報にてご挨拶をいただく予定としております。

迎春

二〇二二年一月一日

本部役員

顧問

荒木光彦

会長

松本絃

副会長

得井慶昌

土井義宏

小野寺秀俊

支部長

北海道

澤井秀

東北

井上茂

東京

伊藤八大

北陸

笠原禎也

中部

酒井和憲

関西

則竹博安

四国

山地幸司

中国

前田耕一

九州

能見和司

本部幹事

佐藤

藤亨

高岡

義寛

藤田

静雄

守倉

正博

和田

修己

黒橋

禎夫

佐藤

高史

洛友会本部役員会・本部総会 報告

令和2年度役員会は、12月27日のオンライン総会に先立ち、臨時役員会（メール審議）を12月2日より下記議題で実施いたしました。

議事

1. 役員会および総会の開催方法の変更について
2. 役員改選について

2. 1. 会長の交代

2. 2. その他役員の交代

3. 総会審議内容について

メール審議の結果、（1）役員会および総会は、新型コロナウイルスに伴い実開催が困難であるため、電子的開催（メール審議およびオンライン開催）とすること、（2）役員改選について、（2-1）長尾会長のお申し出に従いご退任いただき、後任会長として松本紘先生を総会に推薦すること、（2-2）木村磐根先生のご逝去により空席となった顧問の後任として現幹事長の荒木光彦先生、幹事長の後任として前事務局長の佐藤亨先生、以上の原案（幹事会案）をご承認いただきました。さらに、総会審議事項につき確認承認いただき、総会に提案されることになりました。

オンライン開催した令和2年度本部総会には、年末にもかかわらず、71名の参加申し込みをいただき、12月27日（日）午前10時より

Zoomミーティングとして開催いたしました。議事前報告として、事務局より、（1）木村磐根先生・堂下修司先生のご逝去（洛友会報第267号で既報）、（2）「洛友会・支部総会等イベント自粛」について、（3）「令和2年度臨時役員会」

（メール審議・上記の開催方法変更および役員改選の内容）につきご報告しました。引き続き、令和元年度事業報告と決算、令和2年度の事業計画と予算案、役員の改選、推薦会員3名が、それぞれ承認されました。決算および予算審議においては、令和元年度より開始された「学年クラス会・支部活動費等の補助」（洛友会ホームページに掲載、<http://www.rakuyukai.org/blog/2019/07/18/>）について再度紹介し、洛友会活動の活性化にご活用いただきたい旨お願いいたしました。また、予算審議においては、新型コロナウイルスへの対応として、新人生のオンライン授業の環境整備のため、電気電子工学科と相談の上、令和2年度新入生会費分を「学生会員補助」として計上し相殺することを提案しご了承いただきました。

続いて、佐藤亨・新幹事長と和田事務局より洛友会本部報告として、電気系教室技術情報誌Cue、電気系教室懇話会、教室支援事業としてのエレクトロニクスサマーカー

ンプの様子などが紹介されました。事務局報告では、（1）京都大学創立125周年記念事業についてご紹介とご協力をお願い、（2）洛友会ホームページ【資料庫】のご紹介として「京都大学電気系教室の歴史・資料」として、以前からご要望があった「電気系教室の歴史と研究室の変遷」と「洛友会の歌」についての資料を洛友会ホームページで公開していることのご紹介（<http://www.rakuyukai.org/blog/2020/01/20/>、

「京都大学工学系同窓会連絡会」の会長に竹原壽良氏（洛友会・昭41）にご就任いただいたことを報告しました。（洛友会会報 第270号）令和2年10月15日で既報）

引き続き、電気系教室の現況紹介として、和田事務局長と黒橋禎夫学科長より報告をいたしました。京都大学電気系では、平成30年度から文部科学省で開始された卓越大学院プログラムに、「先端

光電子デバイス創成学（コーディネーター・工学研究科電子工学専攻・木本恒暢教授）」が平成30年度に、「社会を駆動するプラットフォーム学（コーディネーター・情報学研究科通信情報システム専攻・原田博司教授）」が令和2年度に採択され、電気系教室を中心に工学研究科・情報学研究科・理学・農学・医学の各研究科・防災研究所・公共政策大学院が連携し

て、海外トップ大学や民間企業等の外部機関と組織的な連携を図り、世界最高水準の教育・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムを推進しています。
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/

また、京都大学キャンパスの最近の状況では2020年4月に開館した桂図書館についても紹介され、電気系教室の組織の変更や学生の就職状況、教員の受賞などが報告されました。

オンライン総会の最後には、画面上での懐かしいお顔の間でのご挨拶などもあり、コロナ収束を祈りつつ、無事終了いたしました。総会審議の結果、新規の推薦会員と令和2年度役員は、以下の通りです。

推薦会員
(令和2年12月27日承認)

・栗田 令 准教授
生存圏研究所
(東北大学 平26年博)

・川山 巖 准教授
エネルギー応用科学専攻
(大阪大学 平12年博)

・篠北 啓介 助教
エネルギー理工学研究
(京大理学 平25年博)

役員の変更 (令和2年度)
顧問 昭30 木村 磐根 (逝)

迎春
二〇二一年一月一日

京都大学

電気関係教室
教員一同

代表取締役社長 松尾 泰

宇宙技術開発 株式会社
代表取締役社長 松尾 泰

電子開発学園
北海道情報大学
理事長 松尾 泰

迎春
二〇二一年一月一日

会長 昭41 荒木 光彦(新)
昭34 長尾 真(退)
昭40 松本 紘(新)
副会長 昭53 小野寺秀俊
(現…教室)

幹事 昭52 得井 慶昌(現)
昭52 土井 義宏(現)
昭41 荒木 光彦
(退…幹事長)

昭51 佐藤 亨
(新…幹事長)

昭49 高岡 義寛(現)

昭53 藤田 静雄(現)

昭54 守倉 正博(現)

昭56 和田 修己
(現…事務局長)

平1 黒橋 慎夫
(新…学科長)

平16 佐藤 高史(現)

教室だより

令和2年度電気系懇話会教室

懇話会報告

令和2年度電気系懇話会が教員、学生、卒業生他約120名以上の参加を得て、11月13日(金)に開催された。今年度は新型コロナウイルスの影響を鑑み、オンラインでの開催となった。はじめに司会の黒橋慎夫学科長が講演会に先立って挨拶をされた。その後、講師をお願いした、松本紘名誉教

授、内元清貴氏(平6年卒)、浅野竹春氏(平3年卒)のお三方により、非常に興味深いご講演を頂いた。ご講演の概要は以下の通りである。

「電磁波の活用

～電気工学から電子工学、そして情報化時代へ～

松本 紘 名誉教授

京都大学名誉教授の松本紘先生にご講演いただいた。松本先生は京都大学工学部電子工学科のご出身であり、同大学大学院の修士課程を修了後、同大学工学部の助手に就かれた。その後、同大学の助教授・教授を経て、京都大学超高層電波研究センター長、京都大学生存圏研究所長、京都大学総長などを歴任され、現在は理化学研究所理事長、国際高等研究所所長を務められている。ご講演では、松本先生の学生時代から今までの振り返りについてまず簡単にご紹介いただいた。続いて電気電子工学、特に電磁波の歴史について概観し、ナノテクノロジー・コンピュータ・バイオテクノロジーと電磁気学の組合せが今の時代の先端技術にどのように結びついているかをご説明いただいた。特に、最先端技術によって未来の社会を形作る上で、洛友会への大きな期待をお話いただいた。京都大学生存

圏研究所の設立にかかわるお話、また現在の理化学研究所で行われている研究、特にCOVID-19に関する研究についてもご紹介いただいた。ご講演の最後には傾聴者から松本先生にご質問する機会が設けられ、ご講演内容に関して活発な質疑応答が時間一杯まで行われた。

「誰もが分かり合えるユニバーサルコミュニケーションの実現に向けた取り組み」

内元 清貴様

(国立研究開発法人情報通信研究機構・平6年卒)

情報通信研究機構(NICT)

ユニバーサルコミュニケーション研究所所長の内元清貴様に、自然言語処理研究における最新の取り組みについてご講演いただいた。内元様は電気工学第二学科のご出身であり、工学研究科にて修士課程を修了後、郵政省通信総合研究所(現NICT)に入所された。また、2004年に博士(情報学)を取得された。

最初に、大規模自然言語処理技術の研究開発成果として、Web情報の多角的な分析を行う人工知能技術、およびマルチモーダル音声対話システムについてご紹介いただいた。前者はWeb上で一般公開されているほか、共通の技術

を使用したSNS情報分析システムが地震や台風等の災害時に活用されたとのことであった。また、後者は高齢者向けの対話システム等への応用が検討されているとのこと、実証実験の様子を撮影したビデオを交えながら分かりやすくご紹介いただいた。

続いて、多言語音声翻訳技術の研究開発についてご説明いただいた。音声認識・機械翻訳・音声合成をサーバ上で行うネットワーク型翻訳システムについて、プロモーションビデオを交えながらご紹介いただいた。音声翻訳は30年以上前に基礎研究が開始され、2回の技術的パラダイムシフトを挟み、ようやく社会展開が実現されたとのことであった。また、次の研究フェーズとして同時通訳への発展を検討しており、プロトタイプ検証や、データ集積および利活用促進のためのエコシステムの構築に取り組みされているとのことであった。最新の研究開発成果における対話や翻訳の品質の高さに驚かされると同時に、いずれの研究開発においても、成果の社会還元に向けた力を注がれていることが印象的であった。ご講演の最後には質疑応答の時間が設けられ、システムの技術的な詳細や、研究開発のプロジェクトの規模、社会実装・社会還元を行うための工夫など、幅広くご回答をいただいた。

「ソニーの半導体レーザーの現状と今後の展開」

浅野 竹春氏

(ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社・平3年卒)

ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社の浅野竹春様にご講演いただいた。浅野様は京都大学工学部電気工学科のご出身で

迎春

二〇二二年一月一日

公益財団法人

京都技術科学センター

(旧財団法人近畿地方発明センター)

理事長 高岡 義寛

公益財団法人

応用科学研究所

株式会社 田中プリント

あり、同大学大学院の修士課程を修了後、1993年にソニー株式会社に入社された。入社後はII-VI族(ZnSe)、III-V族半導体(GaN、AlGaN)によるレーザの開発に従事され、2019年からはソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社のアナログ事業部長を務められている。

講演では、ソニーグループの全体構成の紹介に引き続き、ソニーにおける半導体レーザの開発の歴史を、事業展開との関連を踏まえつつ紹介いただいた。1980年代のCDからそれ以降のDVD、Blu-rayとニーズ(大容量化)に応じて端面出射型レーザ(EEL)が開発されてきたことは、「ソニーの光ディスク開発の歴史そのものだった」とのコメントはとてつもなく説得力あるコメントだった。また最近では新しい応用を見据え、表面出射型レーザ(VCSEL)の開発も精力的に進められているこのことであつた。具体的には、プリンタ、高速通信、Wearableディスプレイ、3Dセンシングなどの応用先が考えられており、特にスマートフォン顔認証に利用される3Dセンシングには今後大きな市場の拡大が期待されるようであつた。

ソニーセミコンダクタソリューションズの特徴として、デバイス単品だけではなく、レーザ、イメージセンサ、ドライバとトータルでの商品開発ができることが大きな強みとなっているとのこと、講演では3Dセンシングを例にお話をされたが、このトータルの開発力の強みは他の分野でも同じではないかとコメントされていたのが印象的だった。最後に今後の展開(3Dセンシング市場の拡大、短距離高速通信、波長領域の拡大)についても紹介いただいた。ご講演後には聴講者から質問する機会が設けられ、活発な質疑応答が時間一杯まで行われた。

講演会終了後、各研究室に分かれてオンラインでのOB会が開催され、近況報告や懐かしい思い出話などで盛り上がった。

会員寄稿

Jリーグ

私のスタジアムガイド

久成 晋平

(平21年卒・関西支部)

私の30数年の人生の中で最も長く続いている趣味は、サッカー観戦です。サッカー観戦の醍醐味は数多くありますが、個人的には地

◎退職記念行事のご案内

令和3年3月31日付けで、藤田静雄教授、小野寺秀俊教授が定年退職、守倉正博教授が退職されることになりました。左記の通り、最終講義を開催することになりましたので、ご案内申し上げます。

藤田静雄教授 最終講義のご案内

日時…令和3年3月9日(火) 午後3時30分～午後5時00分
場所…ZOOMにて開催
題目…「電子材料の深化…なにをどのようにしてつくり出すか？」
申込フォーム: <https://forms.gle/h9a4MAQrFh6hAg9> (短縮版URL)



連絡先…金子 健太郎 講師
Tel: 075-383-3039
email: ken-kaneko@kuee.kyoto-u.ac.jp

※完全オンライン方式で、対面では行いません。

小野寺秀俊教授 最終講義のご案内(ハイブリッド開催)

日時…令和3年3月12日(金) 午後3時30分～午後5時
(午後3時より受け付け開始)
場所(対面)…吉田キャンパス 国際科学イノベーション棟5Fシンポジウムホール
場所(オンライン)…Zoomにて配信
題目…「IoT時代の集積回路」
申込フォーム: <https://forms.gle/h9a4MAQrFh6hAg9>



※QRコードを読めない場合は電子メールでお申し込みください。

連絡先…塩見 準 助教
Tel: 075-753-5312
email: taishoku@visi.kuee.kyoto-u.ac.jp
研究室HP: <http://www-lab13.kuee.kyoto-u.ac.jp/>

※最終講義終了後にオンライン懇親会を予定しています。
※対面参加は、京都市内に在住もしくは通学通勤の方に限らせていただきます。会場密度を下げるため、先着順で対面参加者を決定いたします。

守倉正博教授 最終講義のご案内

日時…令和3年3月8日(月) 午後4時00分～午後5時45分
場所…吉田キャンパス 電気総合館大講義室(Zoomハイブリッド開催予定)
題目…「衛星通信から無線LANまでの研究40年」

連絡先…山本 高至 准教授
Tel: 075-753-5789
email: taishoku@imc.ccei.kyoto-u.ac.jp
研究室HP: <http://www.imc.ccei.kyoto-u.ac.jp/>

※参加方法・最新の状況は、研究室HPをご確認ください。なお、遠隔のみと変更する可能性があります。

元愛を共有する仲間との「一喜一憂」の分かち合いと、ホーム&アウェイで各地を訪問して各クラブサポーターと交流することにより生まれる「一期一会」の出会いを挙げたいと思います。

これまで私が訪れたスタジアムから、「一喜一憂」や「一期一会」の思い出が強く、おすすめたスタジアム4箇所をご紹介します。

1. 埼玉スタジアム2002

(さいたま市緑区)

Jリーグを代表する人気クラブ・浦和レッズの本拠地であり、日本代表の一番も多く開催されてきた、サッカー専用としては国内最大(63,700席)のスタジアムです。

Jリーグ随一の熱狂度を誇る浦和サポーターの応援は、現地で体感すると圧巻の一言であり、対戦相手の選手・サポーターには強烈なプレッシャーとなります。アウェイサポーターとしては、この圧力を跳ね返して一泡吹かせたいといった闘争心がかきたれられるのも事実であり、勝利した時には達成感で天にも昇る気持ちになります。一方で、負けた場合は最寄り駅(埼玉高速鉄道・浦和美園駅)までの徒歩約20分の道のりが大変な苦痛となります。まさに勝てば天国、負ければ地獄であり、勝ち負けに対して「一喜一憂」するに

は最高の舞台といえるでしょう。

2. サンプロ アルウィン

(長野県松本市)

次にご紹介するのは松本山雅FCの本拠地「アルウィン」です。松本山雅は、Jリーグ昇格を目指して地域リーグに所属していた頃から熱狂的なサポーターを擁し、その熱狂ぶりはドキュメンタリー映画「クラシコ」の題材にもなったほどです。

現地を訪れた際におすすめしたいのは、「山雅ビール」と「山賊焼き」の組合せです。山雅ビールは、松本山雅のチームカラーである緑色が特徴のご当地ビールで、驚きの見た目とは裏腹に飲みやすいビールです。山賊焼きは、生姜やニンニクをきかせた醤油だれに漬けた鶏も肉を揚げて作られる、長野県中信地方の郷土料理であり、山雅ビールとの相性は抜群です。



もう一つ特筆したいのは、現地の松本サポーターの温かさです。スタジアムでも、街の居酒屋でも、アウェイサポーターに対する気遣いやおもてなしの心に満ちあふれており、私自身も現地を訪れるたびに感銘を受けています。素敵な「二期一会」が待っている、おすすめの街・スタジアムです。

3. IAIスタジアム日本平

(静岡県清水区)

日本有数のサッカーどころとして知られる静岡の名門クラブ、清水エスパルスの本拠地です。

このスタジアムの魅力は、グルメの充実ぶりです。B級グルメの代名詞ともいえる富士宮焼きそばや、じっくり煮込んだ角煮を盛り込んだ角煮丼など、人気のメニューが目白押しです。天気が良ければ、富士山を眺めながらグルメを味わうことができ、まさに最高のシチュエーションといえるでしょう。

静岡という土地柄、現地サポーターのサッカーに対する目も肥えているのも特徴です。富士山の絶景をバックに、グルメを味わいながら現地サポーターと密度の濃いサッカー談議に花を咲かせる。サッカー大好きな人にはうってつけの「一期一会」が体験できるスタジアムです。

4. パナソニックスタジアム吹田

(大阪府吹田市)

最後にご紹介するのは、わが愛す

るクラブ・ガンバ大阪の本拠地です。

2016年に開場したこのスタジアムは、140億円におよぶ建設費のほとんどを、スポンサー企業およびサポーターからの寄付金により確保しました。5万円以上寄付した法人・個人については、募金者のネームプレートが掲出されており、そこに私の名前も含まれているのは小さな自慢です。

このスタジアムの特徴は、観客席とピッチとの距離の近さによる臨場感であり、(最前列もあるかもしれませんが)他のどのスタジアムよりも、選手とサポーターの一体感を感じられる場所だと思っております。完成してからまだ5年ほどの新しいスタジアムですが、これから仲間のサポーターと「一喜一憂」を数多く積み重ねることで、他クラブのサポーターからも「聖地」と呼ばれるような場所にしていきたいです。

2020年は政治・経済・文化等のあらゆる分野が新型コロナウイルスの影響を受けた一年となりました。サッカー界においても、Jリーグ等の各種大会の日程は大幅に変更となり、スタジアムの入場人数にも制限が設けられるなど、選手・スタッフ・サポーターのそれぞれがコロナ禍による変化への適応を迫られました。

例年であれば年間20試合以上J

リーグの試合をスタジアムで観戦している私も、その回数が大幅に減少してしまいました。新型コロナウィルスが終息し、スタジアムに熱い歓声が戻ってくるのはいつになるのか、まったく予想がつきません。それでも、各地のスタジアムを訪れることで新たな「一喜一憂」や「一期一会」を積み重ねられる、そんな日々が再びやってくることを強く願ってやみません。

四国での暮らし

釣りをしてみよう

植田 有希子

(平26年卒・四国支部)

早いもので地元の四国で就職して6年が過ぎました。就職にあたってはモノづくりをするのか、地元に戻るのか、いろんな選択肢がある中で、様々なことを考え、悩みました。実際のところ、今も本当にこれで良かったのかと考えることはありますが、これまで本当に素晴らしい方々との出会いに恵まれて、充実した日々を過ごすことができている。そして、そうした素晴らしい方々とともに、スノーボードや登山、スキューバダイビングをはじめ、さまざまな趣味に出会えたことも、さらなる日々の充実に繋がっています。

そんな中、最近、趣味の一つに

加わったのが「釣り」。最初に誘われた時には「きつと、海に向かって糸を垂らして、のんびり魚が釣れるのを待つんだろな。暇そーうだけ楽しいのかな？」なんて思いつつ、軽いお付き合いのつもりで行ったのですが、全然イメージと違ってびっくり。釣りって忙しいんですね。

最初に教えてもらったのがサビキ釣り。針にキラキラした疑似餌がいくつもついていて、その下にカゴがついています。カゴの中に、エサになるといふ小さいエビ？アミエビを入れて、海に投入。竿を動かすとカゴからエサが出てきて、魚が間違えて疑似餌を食べるらしい。……本当に釣れるの？そう思いながらも、竿を上下に動かしてみたら。するとすぐに手に振動が！リールを回して、仕掛けをあげてみると、魚がついていました。小さいアジです！楽しい！この手の感覚って、なんとも言えないのですが、ちょっと中毒になりますよ。

やってみてわかったのが、釣りって奥深いということ。1日の中でも釣れる時間帯と釣れない時間帯があつて、昼間は釣れにくくて日の出と日没前後が良く釣れるらしく、これを「朝まずめ」「夕まずめ」と言うこと。同じ時間帯でも日によって潮汐が変わるので釣果も違

います。防波堤からだだと満潮前後がねらい目！さらには季節によって水温が変化するので釣れる魚も全然違います。もちろん場所によっても釣り方によっても違います。

話は戻りますが、最初は堤防でサビキ釣りをしていたのですが、その後、筏で釣りをしようとして誘われて、鳴門の釣り筏に行きました。船に乗って海の上に浮かべている筏に連れて行ってもらうのですが、意外に立派で揺れないし、アジ・イワシ・サバ・サヨリ・キス・カワハギ・チヌ・鯛・などに加え、私は釣ってないですが、ヒラメ・ハマチが釣れたりすることもあるらしいです。そこで特に楽しかった釣りはダンゴ釣り。エサになったエビを針につけて、その周りをダンゴと呼ばれる赤土のようなものでおにぎりのように握り固めて海に落とす釣り方です。海底近くのチヌや鯛がいるところまでエサを守って、ダンゴが崩れた時に、魚がエサをつついたり、くわえたりすると竿の先がクイッと下がります。竿先が下がった瞬間を見極めて、素早く竿を動かすことで魚の口に針を掛けるアワセをしなければならぬので、少しも気が抜けません。

他にもいろんな釣り方があるのですが、最近楽しかったのがアジングという疑似餌を使った釣り。初めてワームという疑似餌でアジ

を釣りました。これまでの釣り方と違って、餌をつけないので、お手軽ですが、生きたエサのように見せて魚を騙さなきゃいけないのと、魚が疑似餌をくわえた瞬間にアワセなければ「これはエサじゃないっ」と感じて、魚がすぐに吐き出してしまふので、餌釣りよりもさらにハイレベルなテクニクが必要になります。手、指先、全てに全神経を注いで……。そう、これは最近流行りの鬼滅の刃で言うところの「全集中の呼吸」。魚との真剣勝負。そして、ビクビクツとまった瞬間に竿をスパンと合わせると、手応えあり！20センチぐらいの大きさがアジが掛かっています。「釣れた」というよりは「釣った」という気分。嬉しさもひとしおです。このように、釣りは知れば知るほど奥が深く、またやればやるほど知識も腕も身についていくので、すっかり魅了されてしまいました。

釣りを通じて成長したこともあるんですよ。まずは料理。釣りをするまでほとんど魚を捌いたことがなかったのですが、今では三枚おろしもお手のもの。刺身、塩焼き、煮つけ、フライ、天ぷらは手慣れたものです。オイルサーディンやアクアパツァを作ったことも。随分と手際よく調理できるようになりました。加えて、虫嫌い

が少し克服できました。虫を好んで食べる魚を狙う場合や、小魚が多くエビだとすぐに食べられてしまう場合は、生きた虫をエサにすることがあります。最初は触ることにすらできなかった虫も、今では素手で付けられるようになりました。さらには普段あまり関わりがなかった方とも一緒に釣りをさせていただくことも多く、人間関係も広まりました。今のところ良いことづくしです。唯一の欠点といえば、いつの間にか道具が増えて部屋を圧迫していることくらいでしょうか。……これは個人的には切実な問題ですが。

次なる目標は、大きい魚を釣ること。今までの最高は40cmぐらいの鯛だったと記憶しています。記録を更新したいと思っています。やっぱり食べておいしい魚がいいですね。生きたアジを泳がせてハマチやブリを釣りたいです。今までは四国内でしか釣りをしたことがないのですが、ちょっと遠征をして、日本海でも釣りをしてみたいですね。

四国で就職することを決めた学生時代、「四国は田舎で遊びに行くとこもなさそうだし、何をしてお過ごしただろうのさ。四国での生活にすぐに飽きてしまいう」と心配をしていましたが、杞憂に終わりました。住みやすく、

自然にもたくさん触れることができ、心もリフレッシュできる。今ではそんな四国での生活を大満喫しています。やったことがないことは何でもやってみようという気持ちで強く、社会人になってから趣味がどんどん増え、休日も忙しく過ごしています。そんな私もあと少しで30歳。「そろそろ落ち着いたら？」という声が聞こえてきそうですが、年齢を重ねて体は徐々でも色んなことに好奇心を抱き、気持ちだけは若く続けたいものです。今後は、キャンプやDIYにもチャレンジしてみたいと思っています。生涯を終えるときに、心残りなく人生満喫した、と思えるような生き方をしたいものです。



魚釣りのすすめ

大野 宜則

(平13年・中国支部)

コロナの第三波が世間を騒がし始めた11月下旬に本寄稿文の原稿を執

筆しています。丁度1年程前、私の恩師である大引得弘先生が瑞宝中綬章を受章したとの知らせが届きました。その後、大引先生と縁のある人達で集い、祝賀会を開くこととなり、約15年ぶりにお目にかかれるのを大変楽しみにしていました。コロナ禍の拡大により、残念ながら中止になってしまいました。本来であれば、直接お祝いを申し上げたかったところですが、遅ればせながら、この場を借りてお祝い申し上げます。

さて、冒頭述べましたようにコロナの第三波が到来し、コロナ禍前の状態に近づきつつあった雰囲気を見事に打ち砕いてくれました。まさにコロナに始まり、コロナに終わった1年でしたが、残念ながら来年もコロナはまだまだ収まる気配はなく、我慢の1年が続きそうです。ただ、ここで腐るのではなく、幕末の志士高杉晋作の詠んだ句「面白きこともなき世を面白く」のように、コロナ禍でも出来ることを探し、人生を面白く生きていることが大事と考えます。そこで今回、コロナ禍においても1年間を通じて楽しめる私の趣味を紹介したいと思っています。本寄稿を読んでもくださった方が興味を持ち、コロナ禍を乗り切り切る一助になれば幸いです。

紹介したい私の趣味、それは魚釣りです。一人でも楽しめ、屋外

のため密を避けることができ、マスクを着けたままで楽しめる魚釣りは、コロナ禍でも安心して楽しめる数少ない娯楽の一つと言えると思います。ちなみに魚釣りという餌を使用した釣りを想像される方がほとんどと思いますが、今回紹介するのは、ルアーを使用した釣りです。釣りを始めた当初は私も餌釣りばかり行っていました。が、気づけば、ルアー釣りにどっぷりハマってしまいました。今回、私が魚釣りに興味を持ち、ルアー釣りにハマっていくまでの話を紹介するとともにルアー釣りの魅力を伝えたいと思います。

私が魚釣りを始めることになったきっかけは17年前の社会人1年目にまで遡ります。私は、大学院を卒業後、地元の中国地方において就職いたしました。最初の赴任先は、まさかの瀬戸内海に浮かぶ離島でした。島内にある娯楽設備といえば、パチンコ屋が2軒あるのみで、島内にある唯一のコンビニは19時に閉店、本土に渡るにも往復5,000円以上の船賃がかかるといった環境でした。四方を海に囲まれ、お金のない時間を持つて余した20代前半の若者が、魚釣りに興味を持つのは、時間の問題と言えました。当時職場の上司がよく魚を釣りに行つては、度々釣った魚を刺身にして、職場の同僚に振舞ってくれていたことか

ら、ある日、上司にお願いして、自分も魚釣りに連れて行ってもらうことになりました。その時教えていただいた釣りは、サビキ仕掛けといって、仕掛けのカゴにアミエビをつめ、釣竿をしゃくする(さびく)ことで、カゴからアミエビを放出し、魚を寄せて釣る方法です。よく堤防などで家族連れが楽しんでいる釣りのほとんどが、この仕掛けになります。私もしばらくは、サビキ仕掛けを中心に釣りを行っていました。が、餌となるアミエビが大きな冷凍のブロックで売られているため、1回の釣りに使用する餌の量がどうしても多くなります。このため、頻繁に釣りに行くと冷蔵庫の中が魚でいっぱいになってしまい、消費に困る事態になりました。そこで、気軽に付けて、必要な量釣れたら自分の好きなタイミングでサツと帰る、そんな釣りができたらよいのにとの思いから、次第にルアー釣りに興味を持つようになりました。

ただ、ルアー釣りを始めるにも、当時、職場ではルアー釣りをすると同僚はおらず、またユーチューブもない時代でしたので、本土に渡った際に、釣具屋や本屋を巡って延々と情報収集を行いました。そして、少ない知識をもとに、とりあえず釣り具屋に進められて

買った仕掛けで初のルアー釣りに挑みました。そして、ルアーを投げては回収すること数時間、こんなプラスチックや金属の塊に針がついた物で本当に魚が釣れるのかと心が折れたところで、その日は終了。初釣行は見事に坊主に終わりました。

その後もルアーに対する疑問を抱いたまま、餌釣りの合間にルアー釣りを行うこと約1ヶ月、その日はやって来ました。その日はイワシの回遊があり、水面がざわついていたので、イワシの群れの中にルアーを通すと、1mを超え太刀魚を立て続けに3匹釣りあげることが出来ました。この日を境にルアーに対する疑問は消え去り、餌釣りから完全にルアー釣りにシフトしました。

ルアー釣りをするなかで分かった、まず理解しおかないといけないこと、それは、本物の餌を使用しないことから、寄せて食わせる釣りではなく、魚がいそうな場所を見極め、積極的にアプローチする釣りであるという事です。このため、潮汐、潮流、風向き、海底の地形等々から、その日、魚が集まっているであろう場所を推測する必要があります。また、本物のエサでないことから、対象とする魚の食性を理解し、普段食べているエサにあわせた操作を行わな

ければならないといけません。例えば、プランクトンを餌としている魚は基本的に潮上に顔を向けて餌が流れてくるのを待っているため、潮流に逆らって仕掛けを引いてくると、魚は全く反応しない。この場合、潮上に向かって仕掛けを投入し、流れに乗せて流しているだけで、釣れてしまう。また、同じ魚でも日によって、プランクトンを餌としている時と小魚を餌にしている時で、ルアーを動かすスピードや重さを変えるだけ釣果が全く異なってきます。その日の状況と対象とする魚から一つの仮定をたて、試してみる。釣れなければ、また違ったアプローチでといった具合で、試行錯誤しながら、その日のヒットパターンを探っていく、そんな戦略性に富んだところが、ルアー釣りの魅力と言えます。そして予想が見事に的中し、釣果に結び付いた時、何とも言えない満足感が得られます。もちろん予想が外れて、全く釣れないこともありますが・・・。

ルアーには、重さ1gを切るものから100g近いものまであり、重たいルアーは100m近くまで遠投できます。つまり、海岸から約100mまでの海底から表層の広大な範囲が対象エリアとなり得ます。このため、足元にいる小魚からブリやシイラ等の大型回

遊魚まで、様々な魚種を狙えることもルアー釣りの魅力と言えます。どうでしょうか。ここまで、長々とルアー釣りについて語ってきましたが、少しでも興味を持っていただけたでしょうか。釣って楽しい、食べて美味しい、家族にも喜ばれる魚釣り、この機会に一度試してみたいかがでしょう。



支部だより

東京支部 令和2年度秋の講演会 実施報告

令和2年11月19日(木)に秋の講演会を開催しました。

今年は京都大学経済研究科特任教授の宇野輝様より「日本の金融機関の諸課題を探索」地銀再編と

ゆうちょ銀行の完全民営化」と題してご講演いただきました。

例年は集合形式での講演会及び懇親会を学士会館で実施していましたが、依然として新型コロナウイルスの感染者発生が全国で続いているため、今年は学士会館での聴講者数を大幅に縮小し、Microsoft Teamsによるweb会議を併用する方式にて運営しました。講演会当日は現地9名、web会議で30名、合計39名の方にご参加いただきました。

宇野様は1966年に京都大学経済学部を卒業後、住友銀行に入行し、同行取締役を経て三井住友カード副社長、SMBコンサルティング会長、日本郵政(株)執行役員、ゆうちょ銀行常務執行役を歴任し、2009年より京都大学経済学研究科特任教授に就任されています。大学では現在の日本の金融機関の課題、その解決策、あるべき姿について講義をされており、今回の1時間の講演では金融機関の課題について概要をお話しいただきました。

講演冒頭では産学官の全ての立場で金融業界をご経験された中で感じた、「若いうちから産学官を経験する人材」及び「グローバル人材」の重要性についてご説明頂きました。

次に、日本の金融機関の総資産、バランスシート、経常利益率

(ROA)、自己資本登記純利益率(ROE)の推移など詳細な数値データから考察される日本国民の預貯金運用や経営に潜む課題についてご説明頂きました。これらの数値はリーマンショック以前から業態(都市銀行、信託銀行、地方銀行、ゆうちょ銀行等)によって大きな差異が存在し続けており、官製銀行では運用利益率に大きな課題があることを定量的に示されました。

続いて都市銀行については日本のGDPが増えない中で総資産を増やすために海外戦略を重視しており、その成否で業績に差がついていることを解説いただきました。地方銀行については、総資産と経常利益や営業経費率の相關関係などから、総資産が一定規模にならないと効率的な運用ができず、再編による最適化が課題であることをご説明頂きました。ゆうちょ銀行、農協・農林中央金庫については決算書を紐解くことで、運用先に外国投信を始めとする高コスト調達・ハイリスク運用が多いこと、配当性向が極端に高く業務効率化に投資できていないことが課題であることを示されました。

最後にこれらの課題の解決に向けては特殊法を撤廃し、官・民の金融機関をイコールフットリングの条件で自由に競争させることが重要である、と述べて講演を終え

られました。講演後は現地およびweb会議の参加者から多数の質問が寄せられ、予定時間の30分間を超える活発な質疑応答の後に閉会となりました。

「報告」 会計幹事 佐々木 純
(平14年卒)



Teams会議



宇野特任教授

計報

昭22	木村 清治	2・9・4
昭25	中村 武三	2・10・18
昭28	武藤 良介	2・8
昭28	田中 恒俊	2・8・16
昭29	星野 聰	2・10・5
昭34	森安 正司	2・1・14
昭36	福渡 英世	2・6・17
昭37	三品 英二	2・6・10
昭50	古津 年章	2・9・26
昭62	清水 一洋	2・11・30

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。



現地会場